

県現地対策本部の活動状況

H27.9.24

1. 住宅

(1) 被災家屋調査

ア 調査内容

- 常総市が発行する「罹災証明」の判定根拠となる被災家屋調査
- 調査は、被害区分（全壊、大規模半壊、半壊等）を判定

イ 実施体制

- 1班2名（市職員＋県職員）で、1日10班程度

ウ 実績

- 18日から開始
- 23日までの6日間で2,910棟を実施

エ 今後の方向

- できるだけ速やかに調査を終える

(2) 住宅に関する意向調査等

ア 調査内容

- 住宅の被災状況及び今後の意向について確認。併せて、公的支援制度を周知。

イ 実施体制

- 1班2名（すべて県職員）で、1日10班程度

ウ 実績

- 19日から開始
- 23日までの5日間で393件を実施
- 外国人についても、国際交流協会等の協力を得て、22日・23日に通訳と一緒に意向調査等を実施

エ 今後の方向

- 25日までに避難者への意向調査をできるだけ多く行う
- 26, 27日に県立水海道第一高等学校、28日に常総市役所石下庁舎で相談会を実施する（外国人にも対応）
- その後、困窮度の高い人から、公的住宅への入居を順次開始する（第1回入居は10月3日目途）

2. 廃棄物

(1) 実施体制

- 現地対策本部に廃棄物班を置き、県職員のほか、環境省2名、(一社)日本環境衛生センター1～2名が常駐

(2) 生活ごみ対応

- 県西市長会の応援を得て、収集運搬車両を追加し、生活ごみの収集を強化

(3) 災害廃棄物対応

- 仮置き場を更に追加して、災害廃棄物の受け入れニーズに対応
 - ・19日から圏央道常総インター用地を追加
 - ・これにより仮置き場は常総市以外も含めて11か所に（うち現在も受け入れ中5箇所）
- 悪臭・衛生面の対応強化
 - ・住宅地に近接している仮置き場等の災害廃棄物の撤去
 - ・塩素剤（次亜塩素酸ナトリウム）の散布

○今後の方向

- ・仮置き場の更なる確保に向けて調整を進める
- ・満杯になった仮置き場等について、分別・処理を速やかに進める

3. 道路

- 19日に国道294号、354号バイパス等が全面開通したことにより、市内の交通状況は大幅に改善
- 市からの要請を受けて、市道の側溝にたまった土砂の撤去や災害査定調査（3箇所13路線）の支援等を実施

4. 生活衛生関係

(1) 上水道

- 21日に常総市相野谷浄水場も仮復旧
- ただし、飲用をひかえている地区もあるため、18箇所で給水車を展開

(2) 入浴

- 8箇所（市内3箇所、市外5箇所）で無料開放
- ※うち2箇所（常総市「あすなろの里」下妻市「ほっとランドきぬ」）については、避難所経由の巡回バス3コースが無料運行
- ※自衛隊の仮設風呂が19日をもって終了したため、20日から民間会社による簡易入浴施設の設置・運営を開始

5. ボランティア関係（茨城県ボランティアセンター）

	ボランティア (人)	家の片付け・清掃 (軒)	備考
12日(土)	212	—	
13日(日)	550	45	
14日(月)	475	51	市ボランティアセンター立上がり
15日(火)	457	62	
16日(水)	425	51	
17日(木)	203	—	雨天
18日(金)	260	—	雨天
19日(土)	251	47	
20日(日)	404	60	
21日(月)	462	58	
22日(火)	434	56	
23日(水)	290	41	
累計	4,423	471	

※ボランティアへの事前承認による高速道路無料化措置を実施。21日からは、当日承認で復路のみの証明書も常総市で発行。